

「もりづくり」って何!?

～人と森林との関わりを考える～

人が手をいれてはいけない森林があります!

日本には、白神山地や屋久島のようなすばらしい原生林が残されています。これらの原生林は、世界遺産に指定されるなど、世界的にも貴重な森林として守られています。また、滋賀県にも湖北や湖西地区にブナなどの貴重な原生林が残されています。

これらの原生林には人が入りこまない方がよいのです。原生林の中は、古代からゆっくりとした時間が流れ、年老いた木はひとりでにたおれていきます。そして、そこにまた新しい木が自然の力で芽生えていくのです。



湖北地区のブナの原生林

これらの場所では、自然が自らバランスを保ちながら豊かな世界をつくり続けているのです。

しかし、白神山地や屋久島では、世界遺産に登録されたことをきっかけに、山に入る人が急に増えました。そして、マナーの悪い人たちが登山道以外の場所に入りこむため、森林の環境が汚されるなど、生態系への影響があやぶまれています。

森林と人との関わりを知ることが大切です!

森林を守りたいと考えたときに、何かひとつの方法に決めつけるべきではありません。

これまでに、その森林と人がどう関わりあってきたかを知ることが大切です。

- ・人がかつて生活の場として関わってきた森林なのか。
- ・人が木材を生産するためにつくった森林なのか。
- ・人がふみ入れることのなかった原生の森林なのか。

その森林の様子をよく見て考えてみましょう。

人がふれない方がよいところと、人が関わる方がよいところをきちんと区別して、それから、みんなで知恵を出し合い、力を合わせて、森林を守る方法を考えていくことが必要です。

